

一般財団
法人

鹿児島陸上競技協会通信 『恒星』

TEL 099-259-6053/FAX 099-299-6054 HP: http://www3.synapse.ne.jp/karikupage

全国都道府県対抗駅伝競走大会

健闘及ぼす 女子17位 男子25位

皇后盃第36回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会は、1月14日、京都市の西京極陸上競技場を発着とする9区間、42.195kmのコースで開催されました。

前年の豪雪と違い、比較的良好な天気恵まれて、12時30分に47チームが一斉にスタートしました。

前回11位で、8位入賞を期して臨んだ本県チームは、1区28位と出遅れ、2区以降の挽回に期待する展開となりました。3区田崎中の原田まりんが健闘して、一時14位まで

追いつきましたが、2時間20分22秒の17位でフィニッシュ。一般選手の体調不良等で中学生・高校生に頼らざるを得ない布陣となり、残念ながら期待に応える結果に至りませんでした。今回の反省を生かし、取組を一層強化していくしかありません。

選手の健闘とスタッフの労をねぎらいます。優勝は兵庫県チームの2時間15分28秒で、14年ぶり4目。本県チームの各選手の区間記録や順位等は次のとおりです。

1区(6km)	原田 まつり (樟南高)	(28)	20'02"
2区(4km)	平田 歩弓 (神村学園高)	(13)	12'55"
3区(3km)	原田 まりん (田崎中)	(11)	9'41"
4区(4km)	前田 海音 (鹿児島女高)	(26)	13'49"
5区(4.1075km)	中尾 友梨奈 (神村学園高)	(11)	13'30"
6区(4.0875km)	金丸 清香 (鹿児島女高)	(20)	13'33"
7区(4km)	宮田 梨奈 (鹿児島女高)	(19)	13'02"
8区(3km)	小代崎陽向子 (田崎中)	(13)	10'23"
9区(10km)	堀口 あずさ (京セラ)	(22)	33'27"

男子1区安藤大樹(鹿児島実業高)8位スタート

天皇盃第23回都道府県対抗男子駅伝競走大会は、1月21日に広島市で行われ、7区間48.0kmのコースで争われ、本県チームは前回より約2分遅い2時間23分26秒のタイムで、順位も13位から後退して、25位という結果で終わりました。

1区で鹿児島実業高校の安藤大樹が、年末の全国高校駅伝競走大会のうっぶんを晴らす走り、8位で中継。後半に希望を託しました。しかし、徐々に順位を落とし、期待に応えることができませんでした。

敗因は女子同様一般選手の体調不良等によってチーム編成がままならなかったことに尽きます。

選手皆さんの頑張りとスタッフの皆さんの労を心からねぎらい、さらなる成長・飛躍を期待しています。

優勝は埼玉県チーム。2時間19分10秒の記録で、3年ぶり2度目の勝利でした。

各選手の区間記録や順位等は下記のとおりです。

1区(7km)	安藤 大樹 (鹿児島実業高)	(8)	20'10"
2区(3km)	西久保雄志郎 (吉野中)	(30)	8'56"
3区(8.5km)	田中 龍太 (明治大)	(40)	25'34"
4区(5km)	安川 元気 (鹿児島城西高)	(12)	14'53"
5区(8.5km)	山口 賢助 (鶴丸高)	(23)	25'47"
6区(3km)	堀口 陽太 (大隅中)	(16)	9'12"
7区(13km)	有村 優樹 (旭化成)	(19)	38'54"

都道府県対抗駅伝競走大会 総合力が試される大会

天皇盃・皇后盃を冠した都道府県対抗男女駅伝競走大会は、一般選手から中学生・高校生を合わせた総合力が試される戦いです。

年明け早々に開催される都道府県対抗男女駅伝競走大会は、テレビで全国放送がされ、陸上競技ファンだけでなく、県民の多くが注目するビッグイベントで、期待の大きい大会です。本県チームは男女共に優勝の経験があり、3年前の平成27年には5位のアベック入賞を果たすなど実績を残し、決して力がないわけではないと考えています。

本県在住の一般選手や中学生、高校生でチームを編成することが理想的ではありますが、現実的には規則に定められた範囲で、ふるさと選手制度を有効に活用することも必要です。

第75回国民体育大会鹿児島大会に向けた選手強化と連動をしながら、一層の底上げを図るとともに、県外で活躍している選手の協力や所属チームの指導者の理解を得ながら常に入賞圏内で戦いを展開できるチームの編成をめざしていきたいと思っております。

第31回県対抗地区対抗女子駅伝競走大会

始良 18年ぶり11度目の優勝!

1月28日に霧島市隼人・国分路をコースとして、第31回県地区対抗女子駅伝競走大会が、6区間21.097kmで行われました。

選手層の厚い始良チームが1区から先頭を譲らず、トップでフィニッシュテープを切りました。タイムは1時間10分3秒。過去10回の優勝を誇る始良地区でしたが、長い間低迷し、18年ぶり11度目という悲願の勝利となりました。

2位には1分54秒遅れの鹿児島チーム、3位は前回の記念大会を大会新記録で制した肝属チームが入りました。

Bクラス優勝は総合4位に入った出水チーム。Cクラス優勝は29年ぶりの最高成績となる7位に入った熊毛チームが獲得しました。

躍進賞は前回の記録を2分29秒短縮した曾於チームに輝きました。

各チームの順位や記録は次のとおりです。

優勝	始良	1' 10' 03"
2位	鹿児島	1' 11' 57"
3位	肝属	1' 12' 10"
4位	出水	1' 12' 42" (Bクラス優勝)
5位	曾於	1' 12' 47" (躍進1位)
6位	日置	1' 14' 00"
7位	熊毛	1' 14' 54" (Cクラス優勝, 躍進3位)
8位	大島	1' 15' 00"
9位	川薩	1' 15' 26"
10位	指宿	1' 17' 27"
11位	伊佐	1' 18' 15"
12位	川辺	1' 18' 38" (躍進2位)

第65回県下一周市郡対抗駅伝競走大会

始良 3年ぶり23回目の栄冠!

日置 大健闘 日間優勝2回 4日目肝属が制す
鹿児島に春の訪れを告げる恒例の第65回県下一周市郡対抗駅伝競走大会は、2月17日から21日まで5日間わたって、53区間588.2kmで戦いが繰り広げられました。

総合優勝は、1日目と郷土入りを制した始良チーム。3年ぶりの最多の23回目の勝利を飾りました。始良地区は県地区対抗女子駅伝競走大会の優勝と合わせ、男女アベック制覇となりました。前回大会で初の完全優勝を遂げた鹿児島チームが2位に入りました。3位は前回同様川辺チームでした。

特筆すべきは日置チームで、2日目で最終日に日間優勝を果たす大活躍でした。総合は前回と同じく4位。また、肝属チームも健闘し、4日目の郷土入りでは12年ぶりに歓喜の日間優勝を飾りました。

Bクラス優勝は川薩チーム、Cクラス優勝は指宿チーム。躍進賞は前回の記録を14分35秒短縮した出水チームが獲得しました。レースは各日共前半目まぐるしく順位が変わる熱戦が展開されましたが、終わってみると3位から12位までは前回と同じ順位で、選手層の固定化を感じさせる大会となりました。

また、区間賞は大島チームを除く11チームが獲得し、区間新記録は6個でした。

大会運営もスムーズに進み、中継所の審判にあたっていただいた方々や関係の皆さまに感謝しながら、最終日に臨みましたが、最終盤に至って事故が発生し、閉会式は中止されて残念な閉幕となりました。

各チームの順位と記録は次のとおりです。

優勝	始良	31' 48' 53"
2位	鹿児島	31' 59' 02"
3位	川辺	32' 06' 20"
4位	日置	32' 06' 50" (Cクラス優勝)
5位	川薩	32' 10' 42" (Bクラス優勝)
6位	肝属	32' 11' 02" (躍進2位)
7位	出水	32' 13' 03" (躍進1位)
8位	曾於	32' 36' 53"
9位	指宿	32' 52' 41"
10位	大島	32' 57' 26" (躍進3位)
11位	熊毛	33' 27' 47"
12位	伊佐	33' 31' 11"

男子10000m 三垣貴史(日置市役所)初V

第55回南日本長距離走大会 1月7日開催

新春恒例の第55回南日本長距離走大会は、1月7日に県立鴨池補助競技場で行われました。一般男子の部10000m日置市役所の三垣貴史が初優勝を飾りました。2位は鹿児島銀行の中原拓海でした。女子共通5000mは国分中央高校の立迫望美が制し、2位にはナンチクの崎浜絵美が入りました。

高校男子10000mは鹿児島工業高校の山元創太、共通女子5000mは国分中央高校の立迫望美が制しました。

各種目の優勝者の記録は次のとおりです。

【男子】

中学1年2000m	吉村 淑秀(国分中)	6'05"16
中学2・3年3000m	野村 昭夢(有明中)	9'02"96
高校5000m	山内 健登(樟南高)	15'00"56
高校10000m	山元 創太(鹿児島工業高)	30'32"58
一般10000m	三垣 貴史(日置市役所)	30'32"04

【女子】

中学1年2000m	西川 歩夢(舞鶴中)	6'45"10
中学2・3年3000m	野村 優花(国分南中)	10'19"36
共通5000m	立迫 望美(国分中央高)	17'25"29

県高校新人駅伝競走大会

男子 鹿城西高初優勝 女子 樟南高21年ぶりV

第24回県高校新人駅伝競走大会は、2月3日に南さつま市の吹上浜海浜公園とその周辺を周回するコースで行われました。

男子は6区間32.3kmにオープン参加を含め34チーム、女子は4区間13.8kmに26チームが出場しました。

男子は1区から鹿児島城高が先行し、鹿児島実業高校と出水中央高校が追う展開になり、2区で出水中央高校にわずかにリードを許しましたが、3区で一気に逆転し、そのまま徐々に差を広げてフィニッシュしました。鹿児島城高は創部14年目で初めて県大会の優勝を遂げました。

女子は神村学園高校が不参加で、樟南高校が1区から先頭に立ち、トップを譲らず、2位以下に2分近い大差をつけて21年ぶりの勝利を飾りました。

6位までの成績は次のとおりです。

【男子】

優勝	鹿児島城西高	1・38'38"
2位	鹿児島実業高	1・39'11"
3位	出水中央高	1・40'19"
4位	樟南高	1・40'39"
5位	鹿児島工業高	1・43'41"
6位	鶴翔高	1・44'05"

【女子】

優勝	樟南高	44'51"
2位	鹿児島女子高	46'34"
3位	鳳凰高	47'02"
4位	出水中央高	47'23"
5位	国分中央高	50'43"
6位	川内高	51'30"

県中学校新人駅伝競走大会

男子 高尾野中 女子 国分南中 勝利!

第29回県中学校新人駅伝競走大会は、2月3日に鹿児島市の桜島溶岩グラウンド周回コースにおいて、男子6区間19km、女子5区間12kmで争われました。

男子はオープン参加の2チームを含め42チームが出場し、高尾野中学校が優勝しました。女子はオープン参加5チームを含め44チームが出場し、国分南中学校が栄冠を手に入れました。

男女6位までの結果は次のとおりです。

【男子】

優勝	高尾野中	1・4'08"
2位	国分南中	1・4'37"
3位	国分中	1・4'46"
4位	伊敷中	1・5'00"
5位	川内中央中	1・5'22"
6位	第一鹿屋中	1・5'34"

【女子】

優勝	国分南中	42'27"
2位	城西中	44'30"
3位	重富中	44'52"
4位	伊集院中	45'18"
5位	志布志中	45'34"
6位	東谷山中	45'36"

鹿児島マラソン2018

盛大に開催 京セラ勢大会新!

男子 飛松佑輔2連覇 女子 床呂沙紀233'41"

3回目となる鹿児島マラソン2018は、鹿児島市のドルフィンポート前をスタートして、始良市の重富で折り返し、鹿児島市役所前でフィニッシュする公認マラソンコースで行われました。

昨年と違って変わり、今回はスタート直後から20度を越すやや暑い中でのレースとなりました。

大会には国外を含め県内外からフルマラソンに10,168人、ファンランの部には前会より500人多い2,684人が出走しました。制限時間7時間のマラソンは、多くのランナーが暑さに苦しめられたようで9,205人が完走し、90.5%の完走率でした。

男子のマラソンレースは、前回大会で大会新記録を出した日置市役所の飛松佑輔が5kmぐらいから飛び出し、連覇を果たしました。2位に熊本大学の古川大晃が入り、3位は県外招待選手の有馬圭祐(九電工)でした。女子マラソンは、京セラから2人の招待選手が出場し、床呂沙紀と古瀬麻美が大会記録を大幅に更新するタイムでワンツーフイニッシュを遂げました。新記録で優勝した床呂沙紀には、アールピーズスポーツ財団からMCC報奨金が贈られました。3位は前回の覇者、ナンチクの崎浜絵美が入りました。

3位までの入賞者と記録は次のとおりで、女子は2位まで大会新記録でした。

【男子】

優勝	飛松 佑輔(鹿児島：日置市役所)	2° 18' 04"
2位	古川 大晃(熊本：熊本大学)	2° 19' 15"
3位	有馬 圭祐(福岡：九電工)	2° 20' 20"

【女子】

優勝	床呂 沙紀(鹿児島：京セラ)	2° 33' 41"
2位	古瀬 麻美(鹿児島：京セラ)	2° 36' 34"
3位	坂口 一美(鹿児島：伊佐市)	2° 56' 59"

燃ゆる感動 かがしま国体

第75回国民体育大会 熱い鼓動 風は南から

平成30年度の競技会が始まりました。皆さまには昨年度はたいへんお世話になりました。誠にありがとうございます。今年度も一層の御支援御協力を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

30年度は県立鴨池陸上競技場の国体に向けた工事が佳境に入り、それに伴い、多くの競技会を鴨池補助競技場で行い、また、薩摩川内市で県陸上競技選手権大会や県高校陸上競技大会等を計画しています。

このように30年度も昨年度に引き続き不便、不自由な競技会運営になりますが、皆さま方の御理解御協力を賜りますよう重ねてよろしくお願い申し上げます。

県立鴨池陸上競技場ネーミングライツ設定

『白波スタジアム』に 競技役員車両駐車 公園内駐車制限 御理解を

県立鴨池陸上競技場のネーミングライツが設定され、42日にロゴマーク看板除幕式が行われました。本協会から高橋貞成副会長が出席して、祝辞を述べました。この新しい名称が広く浸透していくことを願っています。

また、鴨池運動公園の園路工事も本格化し、競技会開催の競技役員車の車両駐車が制限されることになりました。不自由をおかけすることになるかと思いますが、御理解御協力を賜りますようお願い申し上げます。

『Athlete First』から『Friendly』な競技運営へ

競技会はこれまでAthlete Firstの視点で運営に御尽力いただきました。日本陸連はFriendlyな運営を提唱しています。Athlete Friendly(競技者を想い、競技者に優しく) Spectator Friendly(わかりやすく、魅せる)、Official(Staff) Friendly(全ての関係者に優しく)な運営をめざしましょう。

『燃ゆる感動 かがしま国体・大会』まで 残り902日

第75回国民体育大会・第20回全国障害者スポーツ大会 鹿児島大会開催まで、後902日となりました。先般の競技規則修正講習会で国体の競技役員意向調査を行いました。いよいよ国体に向けた取組を加速してまいります。国体成功の鍵は、選手の活躍と円滑な競技会運営です。競技力の向上、選手強化については、強化部が主体となして懸命に取り組んでいます。競技会は、競技役員協力の協力な運営でできません。これからは審判技術の向上が喫緊の課題です。諸競技会に積極的に参加して、審判技術の向上に取り組んでいただきますようお願いいたします。